



久留米市美術館

とき・ひと・美をむすぶ

市美術館のイベントや所蔵作品を紹介します。

野十郎の作品も増えました

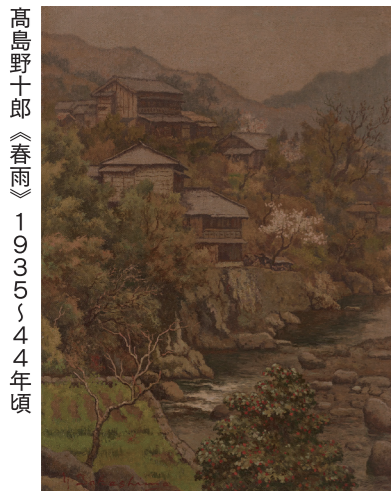
このたび、高島野十郎の作品「春雨」「静物」が久留米市美術館のコレクションに加わりました。「春雨」は約30×25cmという小ぶりな作品ながら、雨に煙る風景が細密に描かれています。裏には「伊豆湯ヶ野温泉にて」という書き込みがあり、明るい色彩や平明な描写、署名の字などから昭和10年代だと推測されています。

美術館では、すでに「蠟燭」「ぶどうとりんご」を所蔵しています。今回の「コレクションing」展では、野十郎の所蔵作品をすべて展示する予定です。画題や制作年の違いなどをぜひ見比べてみてください。【学芸員：森智志】

市美術館 (☎0942・39・1131、FAX 0942・39・3134)

コレクションing 3月24日(日)まで

きょうも活動中



高島野十郎《春雨》1935〜44年頃

子どもたちと、まちと、文化の明日を元気にする

久留米シティプラザ



シティプラザの主催・提携イベントを紹介します。

小松杏里のくるめ演劇塾 2018 後期 特別ゼミ参加者募集

【西山ゼミ】日時 2月3日(日) 14時～17時 内容 基山町出身の俳優・西山水木氏を講師に、声と言葉の基礎と基本を学習

【穴迫ゼミ】日時 2月17日(日) 14時～17時 内容 劇団ブルーエゴナクの穴迫信一氏を講師に、言葉と音、詩とせりふ、そのリズムを学習

いずれも会場はスタジオ。対象は中学生以上。料金は1,000円。申込書は問い合わせ先・ホームページに準備

松竹大歌舞伎

日時 4月23日(火) 13時30分～、18時～ 会場 ザ・グランドホール 内容 松本幸四郎改め二代

市久留米シティプラザ (☎0942・36・3000、FAX 0942・36・3087)



十代目 松本幸四郎

二代目 松本白鸚

目松本白鸚、市川染五郎改め十代目松本幸四郎の襲名披露 料金 S席 7,000円、A席 6,000円 連携中 枢都市圏先行発売 1月27日(日) 10時～2月1日(金) 19時・窓口・ホームページ。ホームページ予約は1月31日(木) 19時まで。住所が確認できる物が必要 一般発売 2月2日(土) 10時・シティプラザ窓口・ホームページ、各プレイガイド

MICE 情報

※ MICE (マイス) とは、多くの集客・交流が見込まれる会議 (Meeting)、研修旅行 (Incentive Travel)、学会や国際会議 (Convention)、展示会や見本市 (Exhibition/Event) の頭文字を取った言葉です

シティプラザで開催される MICE を紹介します。

◎ 1月25日(金)、26日(土)・第29回日本心血管画像動態学会 (関係者のみ)

市コンベンションリンクページ (☎092・437・4188、FAX 092・437・4182)



人権の花「ひまわり」

シリーズ

じんけんの絆

36

隔離政策が生んだ悲劇を教訓に

ハンセン病の患者だった父を持ち、県人権問題講師団講師として、さまざまな人権問題の解決に向け活動している林力さんに話を聞きました。

治る病気になってもなお

ハンセン病は、病原菌による感染症です。手足や顔にゆがみが出るため、怖い病気だと恐れられていました。国は、当時から感染力や発病力が低いと分かっていたのに、隔離政策を強行したことで、感染しやすい不治の病という印象を植え付けました。戦後、特効薬が開発され、治る病気になったにもかかわらず、隔離政策は平成8年まで続きました。

家族も差別の対象に

父は、私が小学生の時に鹿児島県の療養所に入りました。それから間もなくのことでした。突然、長靴に白衣を着た人たちが私の家に入り込み、そこら中を消毒していきました。当時、国を挙げてハンセン病患者をまちから排除する運動をしていたんです。立ち入り禁止の看板を立て、物々

しい雰囲気を見せることで、ハンセン病が恐ろしい伝染病であるかのように印象付けたかったのだと思います。私も発病への恐怖を感じるようになりました。

さらに、ハンセン病患者の家族ということが知られると、学校でいじめられ、地域からも村八分にされました。母と私は福岡を離れ、親戚が住む東京へ。私は差別を恐れ、周囲に「父は死にました」と言って、存在自体を隠し続けたのです。

無知こそ差別の始まり

戦後、私は教師になり、同和教育にも取り組み始めました。部落差別とハンセン病患者への差別、どちらも本人に非は無い。父や私が受けた差別と部落差別が重なって見えたのです。被差別部落に生まれたことに胸を張る人たちと出会い、「なぜ、父を隠しているのか」と自問自答しました。何のためらいもなく、自分のふるさとや病気にかかった肉親を語る社会にしたい。私は、今まで隠し続けてきた父のことを話し、差別解消に取り組んできました。

ハンセン病は、恐ろしい病気という誤った認識が差別をもたらしました。無知こそ差別の始まり。正しく学び、知ることがさまざまな差別の解消につながっていくと思います。

市健康推進課

(☎0942・30・9331、FAX 0942・30・9833)



大正13(1924)年生まれ。福岡市在住